

グレートスター ジャパン

海外のICT技術を紹介、 国内建設業のDXを支援

グレートスター ジャパンは、中国・浙江省の大手工具メーカー、杭州巨星科技（グレートスター・インダストリアル）の日本現地法人として設立されました。アジア最大のツール事業規模を誇る親会社は、工具・フォークリフト事業を上海証券取引所に上場させており、中国や周辺各国に生産拠点を構えて各種ツールのOEM供給を展開しています。日本法人は横浜に拠点を置き、工具のほかにも海外製の測量機、マシンガイダンスなどの輸入販売を手掛け、日本市場に特化した事業戦略を描いています。



話し手：安田智之 代表



マシンガイダンスiDig



高精度3軸傾斜センサー

■油圧ショベル用のマシンガイダンスが人気

グレートスターは世界的にM&Aに力を入れています。日本法人はゼロから立ち上げた会社です。事業は工具、重機に取り付けるマシンガイダンス、測量システムの3本柱。中国やヨーロッパ諸国からの輸入製品を取り扱う商社です。工具は国産メーカーが強い市場ですが、マシンガイダンスや測量機などはニッチな市場で、海外の進んだ製品を提供しています。

人気の商品は、フランスの企業が開発したマシンガイダンス「iDig」。油圧ショベルでの掘削をナビゲートするシステムで、従来2人で行っていた作業がオペレーター 1人で可能に。省人化を実現し、安全性も向上。人手不足な現場をサポートします。配線なしで後付できるワイヤレスセンサーが最大の特徴。主に中小土木建設業に普及しています。

■省人化・安全確保の解決策を提案

日本の建設業界はDX化・省力化で課題を抱えています。従事者の高齢化や、時間外労働の規制強化に伴う働き方改革の「2024年問題」への対応も迫られています。国も、ICT（情報通信技術）を活用して建設システムの生産性向上を図る「i-Construction 2.0」を掲げています。

とはいえ、DXは、経営者の考え方によって進み方が違います。小さな企業でも、DXが進んでいる例は少なくありません。展示会は年5回ほど出展し、ディーラーとも協力しながら、「iDigを使えばICTは難しくない」「省人化、安全確保ができる」ということを伝えています。

■防災に活用される遠隔監視システム

日本では道路や橋、トンネルなど多くのインフラが老朽化を迎え、メンテナンスの対策は急務となっており、遠隔監視（モニタリング）が推進されています。

こうした技術は防災の観点からも注目されるようになっていきます。まだ日本では短期の工事期間に限ったモニタリングが多いのですが、ヨーロッパでは中長期のモニタリングが行われています。取り扱い製品の高精度3軸傾斜センサーは、地形の微細な傾きを察知し、計測データをクラウドに上げ、担当者は24時間どこからでも閲覧できるモニタリングシステムです。

2024年1月の能登半島地震の被災地でも、こうした傾斜計が働いています。学校の近くで斜面が崩れたため、開校している学校のそばで工事をする際、変位がないかどうかを監視しています。大きな動きがあれば、行政機関や関係者に一斉にメールが飛ぶようになっています。

■日本企業の競争力向上に貢献したい

ニッチな業界ではありますが、市場に精通した人材が海外の目新しい商品をローコストで提案していきたいと考えています。ユーザーのために、法規制に適合する証明書やNETISへの登録、日本語でのマニュアルづくりにも注力しています。

国際都市で、地の利もよい横浜に日本法人を構えることになりました。東京よりオフィス費用は手頃ですし、人材も採用しやすいと感じます。

（取材日：2024年12月）

グレートスター ジャパン株式会社

所在地：横浜市中区山下町223-1 NU関内ビル10階
代表者：安田智之

設立：2017年5月

事業概要：工具・レーザー測定器のOEM/ODM輸入販売、マシンガイダンス・測量機・モニタリングシステムの輸入販売

URL：<https://greatstarjapan.co.jp/>